

保健福祉委員会の主なご報告

●居住支援協議会の検討状況について

「相談窓口職員向け手引き」「つなぐシート（千代田区居住支援申込用紙）」「不動産業者向け居住支援事業案内」「区民向け相談窓口案内」を作成、配布することが報告され、入居支援とあわせ区民に寄り添った対応を検討していくことが確認されました。

●（仮称）神田錦町三丁目施設整備の進捗状況について

令和3年8月の住民説明会で示した案から建物高さなどを変更する案で検討していること、今後、意見交換会、住民説明会を重ねて開催し引き続き丁寧に向き合って対応していくことが確認されました。

●指定管理施設に関するモニタリングについて

- ①モニタリング全体の概要
- ②いきいきプラザ一番町の労働環境モニタリング結果
- ③高齢者総合サポートセンター（かがやきプラザ）の労働環境モニタリング結果が報告され、ハラスメントの窓口に関する事項含め調査項目の評価内容は概ね良好であることが確認されました。

そのほか「新型コロナウイルス感染症関連給付金等の支給状況」「オミクロン株対応ワクチン接種」「千代田区災害時合同医療救護訓練」について報告がありました。

※今定例会で当委員会に付託された議案審査事項はありませんでした。



千代田区議会 自由民主党

池田とものりの 区政レポート

令和3年度各会計決算に賛成
多数で認定(可決)されました。



決算調査を振り返って

令和3年度の決算審査は、実質、樋口区政一年目の総括となります。
課題として指摘された項目を取り上げてみます。

神田警察通り 道路整備について

街路樹の保存を求める陳情が数回にわたり出されましたが、議会としては、Ⅱ期区間の工事契約議案を賛成多数で可決しているため、工事を進めるべきと判断している。

千代田区の教育の あり方について

待機児童解消後、定員割れの保育施設の支援や閉園した施設の利活用、ICT教育の充実、部活動への取り組み、子どもの発達支援の拡充など、全ての子どもに切れ目のない支援を求める。

千代田区民体育大会の 実施について

現在進行中の見直し検討会で指摘された課題(会場のキャパシティ・コロナ感染症対策・大会の認知度など)を検討しつつ開催に向け進めていく。

来年度発足される こども家庭庁について

子ども部と保健福祉部がしっかりと連携して、障害児への支援、子育て支援、いじめ問題対策等に取り組んでいく。

※一部抜粋しましたが、多岐にわたる項目を執行機関へ問いかけ、次年度以降も区民サービスの向上に努めるとの回答がありました。

食品ロス対策 について



10月は食品ロス削減月間、東京都では2020年から東京食品ロス0(ゼロ)アクションとして食品ロス対策に着目しています。今年は食育推進基本法がつくられて17年、食育推進基本計画も4期目となり5年ごとに見直される内容からも「食育」という言葉も根付いてきました。千代田区でも食品ロス対策につながる講演が実施され、取り組む姿勢がわずかながらみえてきました。



デフリンピック東京開催決定!!



4年に1度開かれる、聴覚障害のある方たちのスポーツの国際大会「デフリンピック」の東京での開催が決定しました。期間は2025年11月15日～26日の12日間で、およそ80の国と地域から5,000人から6,000人の選手団の参加を見込

んでいます。障害当事者であるろう者自身が運営する国際的なスポーツ大会であり、国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに大きな特徴があります。日本での開催は初めてで、日本選手団の活躍に期待しています。

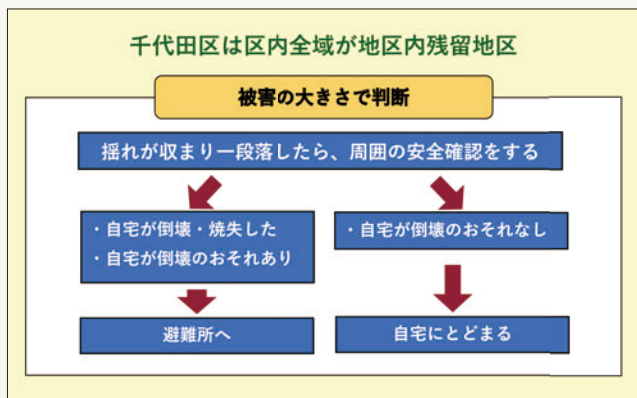
区議会定例会において 一般質問 を行いました！



防災士について

災害の際はまず「自らの命は自ら守る」という「自助」の備えが基本です。大震災では、建物の倒壊や火事、さらには水による被害などが大切な命を奪う原因となり、その対策こそが最も重要とされています。

震災発生後、自宅に留まれず避難所での生活と



なった場合は様々な判断が必要になります。避難所では慣れない集団生活のために精神的、肉体的な負担も強いられます。

消防団員は災害時には救助活動に従事しますので、避難所での指揮は避難所運営協議会の方が行います。平常ではない状況に誰もが不安を感じると思います。その際に地域の防災リーダーとして期待されるのが防災士の資格を持った方々ではないでしょうか。

防災士とは2003年からスタートした民間防災リーダーで、現在、全国で17万人が認証されています。地域防災リーダーを育成するため、本区では平成30年度から、地域の防災活動に携わっている方を対象に防災士の資格取得費用の助成を行っています。あまり浸透していないようです。

池田 防災リーダーの担い手として防災士が増えることは地域の防災力の向上につながると考えるが、区としての見解をお聞かせください。また、防災士の資格取得に関わる助成事業のこれまでの実績はいかがでしょうか。

回答

区としても、地域の防災リーダーとして防災士が増えることは地域防災力の向上につながるものとする。この4年間で年平均5人の実績があり、制度の成果や課題を検証し助成の拡充など検討していく。

大学との連携について

基本協定について

高等教育連携強化コンソーシアムに参加している5大学・2短期大学を含む区内の複数の大学は、本区と『大規模災害時における協力体制に関する基本協定』を締結しています。首都直下型地震や、ゲリラ豪雨による河川氾濫などの予測困難な大規模自然災害が発生した際、各大学が対応可能な範囲で「区民や一般の帰宅困難者の受け入れ」および「情報・食糧・飲料水などの提供」などを担うことが示されています。

池田 大規模災害時と平常時の協力体制の確保に関し、千代田区と基本協定を結んでいる各大学とのコロナ禍での連携状況はいかがでしょうか。

回答

社会福祉協議会を通じて学生ボランティア育成事業を継続して支援している。災害時の帰宅困難者対策の物資の活用については、各大学の対応状況を確認していく。

防災備蓄食品について

地震発生後の数日間は食料の確保が難しくなるため、最低3日間程度の備蓄物資を用意しておきたいものです。農林水産省の『災害時に備えた食品ストックガイド』では、主に災害時に使用する非常食だけでなく、日常で使用しているものをローリングストックとしてバランスよく備えることが大事であるとしています。備蓄食品を取り出しやすいところに保管し、日常で使用して補充することで賞味期限切れを防ぎ、災害時でも食べ慣れたものを食べられます。また、定期的買い替

えてずっと備蓄したままにならないことが食品ロスの削減にもつながります。しかしながら、災害時に備蓄食品をそのまま食べるのは味気なく、我慢して食べているとストレスを感じるようになります。

池田

専門性のある大学で備蓄食品をアレンジした防災食を考案し、情報発信してみたいはかがでしょうか。

回答

防災食については、千代田大学の取り組みで考案された防災備蓄品を用いた料理例などを、今後様々な方法で区民に周知していきたい。



公式ホームページでも最新の活動を随時配信中です！ www.ikedatomonori.net

池田とものりPROFILE

「保健福祉委員会」(常任委員会)委員長 「環境・まちづくり特別委員会」 「議会のあり方調査検討特別委員会」 「議会運営委員会」

TOKYO 自民党政経塾第10期生

自由民主党千代田区第十六支部支部長

平成27年4月 千代田区議会議員選挙 初当選(747)

平成31年4月 千代田区議会議員選挙 第2期目当選(726)

★昭和44年10月28日、麹町で生まれる ★昭和51年 麹町保育園卒 ★昭和57年 麹町小学校卒業 ★昭和60年 麹町中学校卒業 ★昭和63年 日本大学第二高等学校卒業

★平成4年 日本大学商学部会計学科卒業 ★平成6年「フルーツエリア鶴」に就職、祖父鶴三、父清の後を継ぎ、三代目つるさんに ★平成20年度・21年度 麹町小学校PTA会長

★平成25年～平成29年 共立女子学園後援会副会長 ★平成29年度・30年度 共立女子中学高等学校PTA会長 ★元共立女子中学高等学校後援会会長

現在 有限会社八百鶴商店 取締役 ★平成15年～26年・30年～ 千代田区スポーツ推進委員 ★千代田区ドッチビー協会会長 ★千代田区相撲連盟顧問

★千代田区ラグビー・フットボール協会理事 ★初級障がい者スポーツ指導員 ★災害時寄り添いサポーター ★認知症サポーター

(趣味)けん玉(初段)「連続大皿成功ギネス記録達成126人の一員(紅白歌合戦出場)」・ボウリング・ドッチビー(指導・審判員資格取得)

池田とものり事務所

〒102-0071 千代田区富士見2-15-8-902

TEL:090-1254-2709

mail:ikedatomonori.turu@gmail.com

